



DX時代の

“開発を止めない”

Webセキュリティ

— 診断のムダ工数を減らすDevSecOps戦略ガイド —

AeyeSecurityLab

本資料の目的

デジタル化の進展に伴い、開発サイクルが高速化し、アジャイル開発やCI/CDといった開発手法が主流になっています。一方で、顧客や社会から求められるセキュリティ要件はますます高まり、開発現場は「スピード」と「セキュリティ」の板挟みに。

WebサイトやWebアプリケーションの開発においては脆弱性診断が不可欠ですが、外部委託した場合は委託先との連携に膨大な工数がかかったり、内製化すると多くの人手が必要で、知見者の業務が圧迫されることも。また、診断品質のバラつきや網羅性の欠如など、セキュリティ品質そのものに課題が残ることも少なくありません。

そこで本資料では、AIを活用した新しい診断内製化のカタチで、開発を止めることなくセキュリティ品質を高める方法をご紹介します。

開発者の皆様が無理なく実践できるDevSecOpsの戦略ガイドとなっていますので、ぜひ最後までご覧ください。

開発サイクルが高速化し
セキュリティへの要求が強まる中
こんな課題を抱えていらっしゃいませんか？

手戻りによって
開発サイクルが
遅延



非効率な作業と
周辺業務が
オーバヘッドに



品質と
スピードの両立が
むずかしい



DX進展に伴う市場と開発手法の変化

市場の変化と競争激化

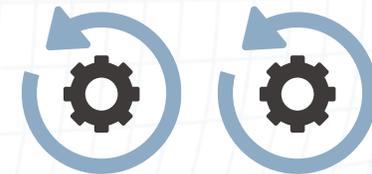
デジタル化の進展で、Time to Marketが競争力を左右する主要因に



差別化・顧客ニーズへの迅速対応が求められる中で、開発サイクル短縮が不可避

開発手法の変化

アジャイル開発やDevOpsが主流になり、継続的なCI/CDが一般的に

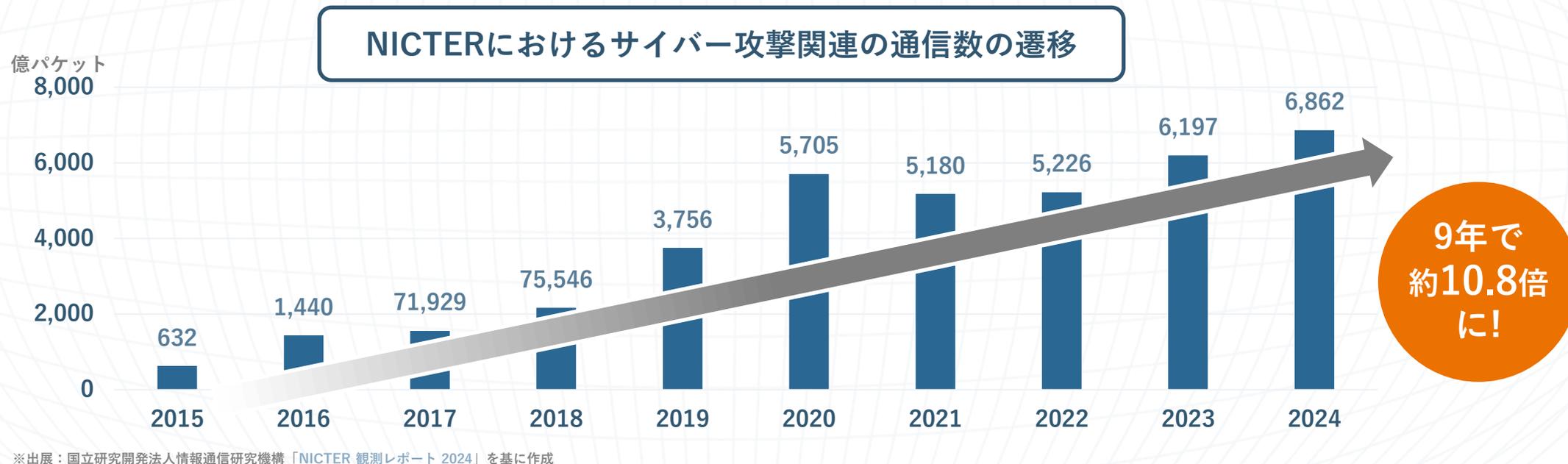


従来のウォータープルーフ型開発と比較し、より頻繁なリリースが必要に

高速な開発サイクルがセキュリティプロセスのプレッシャーに

セキュリティ要求の高まり

増加の一途を辿るサイバー攻撃。被害は単なる情報漏洩だけでなく、事業停止・ブランドイメージ失墜につながる恐れもあり、顧客・社会からのセキュリティに対する信頼要求も強まっています。



セキュリティは「コスト」ではなく、信頼獲得のための投資に

トレンドがもたらす課題

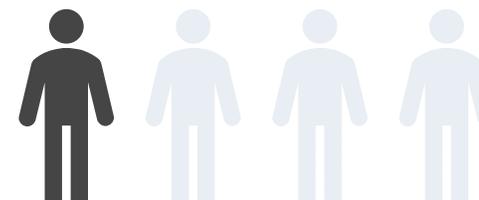
デジタル化の進展に伴う開発サイクルの高速化と、顧客・社会からのセキュリティ要求の高まりは、開発現場にこれまでとは異なる新たな課題とギャップを生み出しています。

開発とセキュリティの板挟み



早くリリースしたいプレッシャーがある一方
セキュリティ部門からは「安全確保」の要求が

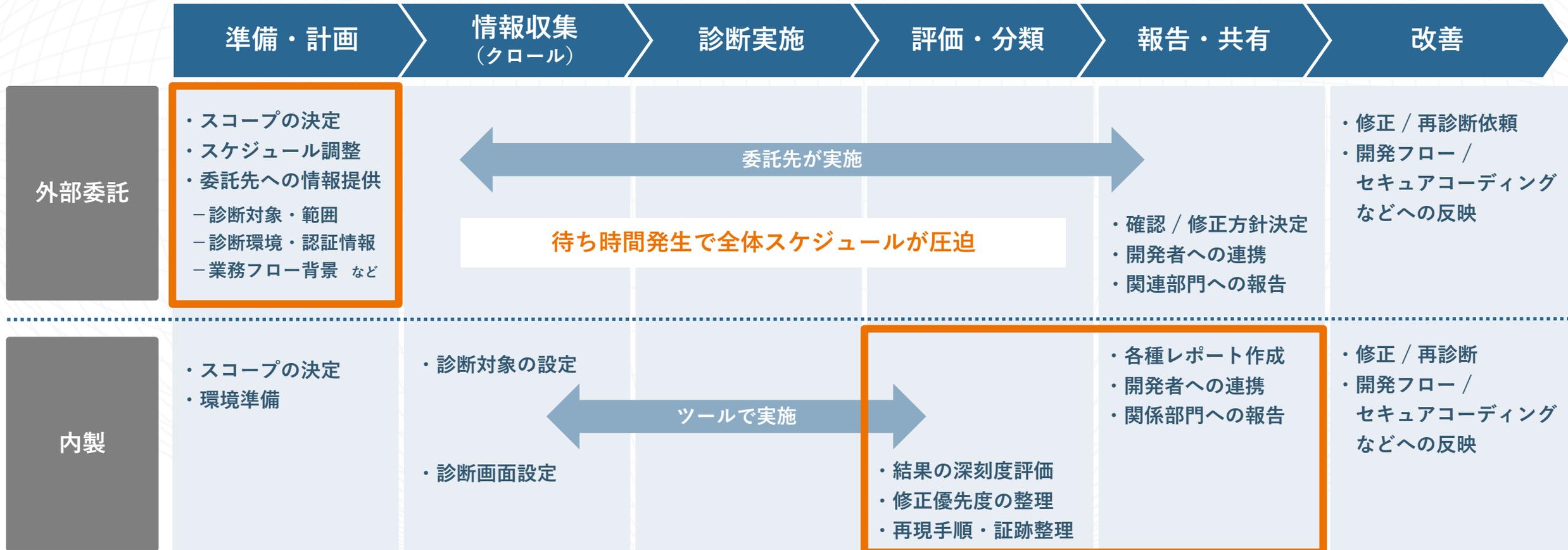
人材・ノウハウの不足



高度な要求に対応できるセキュリティ人材や
DevSecOps推進ノウハウが多くの企業で不足

なぜセキュリティテスト（脆弱性診断）には時間がかかる？

脆弱性診断の方法は、“外部委託”とツールを使った“内製”の2つに大別されます。外部委託の場合は「準備・計画」、内製する場合は「評価・分類～報告・共有」の工程で多くの工数を要します。



外部委託・内製それぞれで陥りがちな課題

外部委託

- 委託先との連携に工数がかかる
 - － 診断スケジュール調整、対象洗い出し
 - － 見積もり・発注などの契約手続き
 - － 診断結果の解釈や修正方針の調整 など
- 委託先によって診断品質に差が生じる
- 全体の対策状況が管理し辛く漏れが発生

内製

- 社内的人员リソースが必要な領域が多い
 - － ツールを扱うための設定
 - － 大量に発生する誤検知の精査
 - － 結果の解釈・レポート作成 など
- 対策精度が人のスキルに依存する
- 診断範囲の可視化が難しい

工数・コスト・人材不足の課題に加え

本来の目的である「セキュリティ強化」における課題も

| AeyeScanで実現する、新しい内製化のカタチ

使用するツール次第で、診断の内製化は現代の開発におけるセキュリティ課題の解決策になります。

 **AeyeScan** (エーアイスキャン) で

開発スピードを緩めず

セキュリティ強化!



クラウド型Webアプリケーション
脆弱性検査ツール

国内市場シェア

No.1※



有償契約
300社以上

※富士キメラ総研調べ「2025 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧 市場編」Webアプリケーション脆弱性検査ツール ベンダーシェア (2024年度実績)

※ITR調べ「ITR Market View: サイバー・セキュリティ対策市場2025」SaaS型Webアプリケーション脆弱性管理市場: ベンダー別売上金額シェア (2023年度実績)

プロが認める品質・精度

セキュリティベンダーやSIerでも
顧客向けサービスとして活用

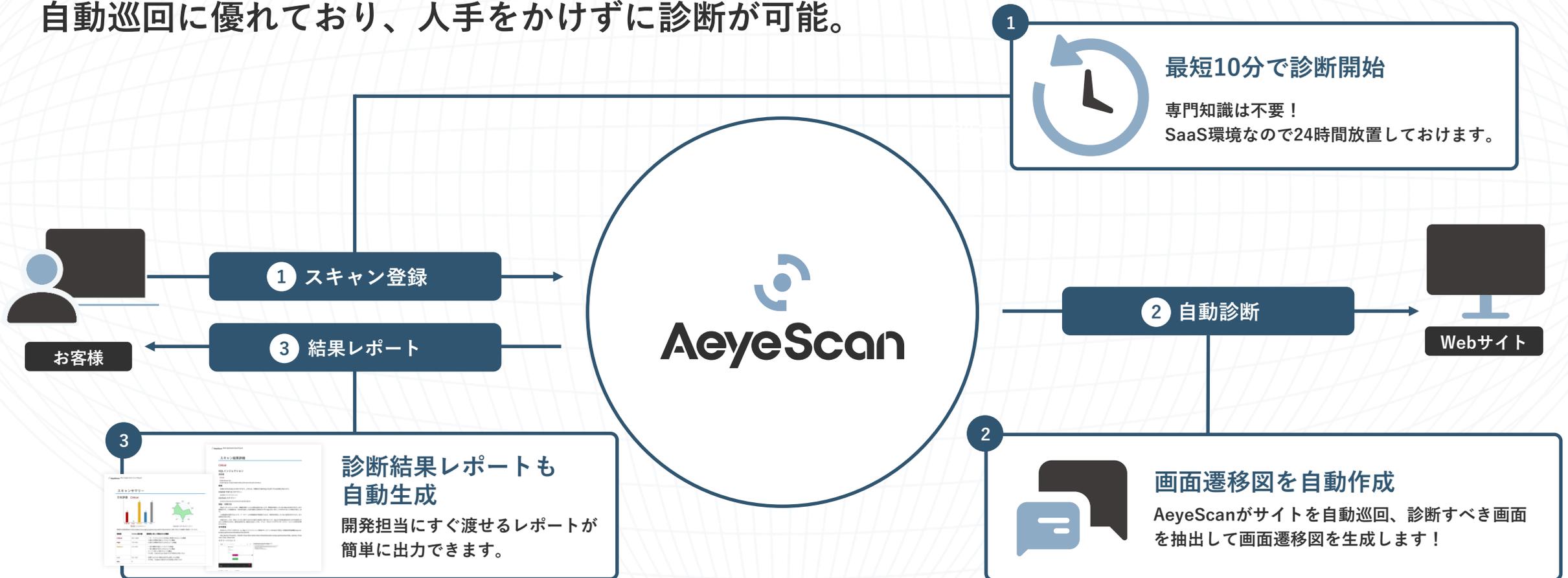
×

ブラウザ上での直感的な操作

専任エンジニア不要、情シスや開発部門でも
安定した運用が可能

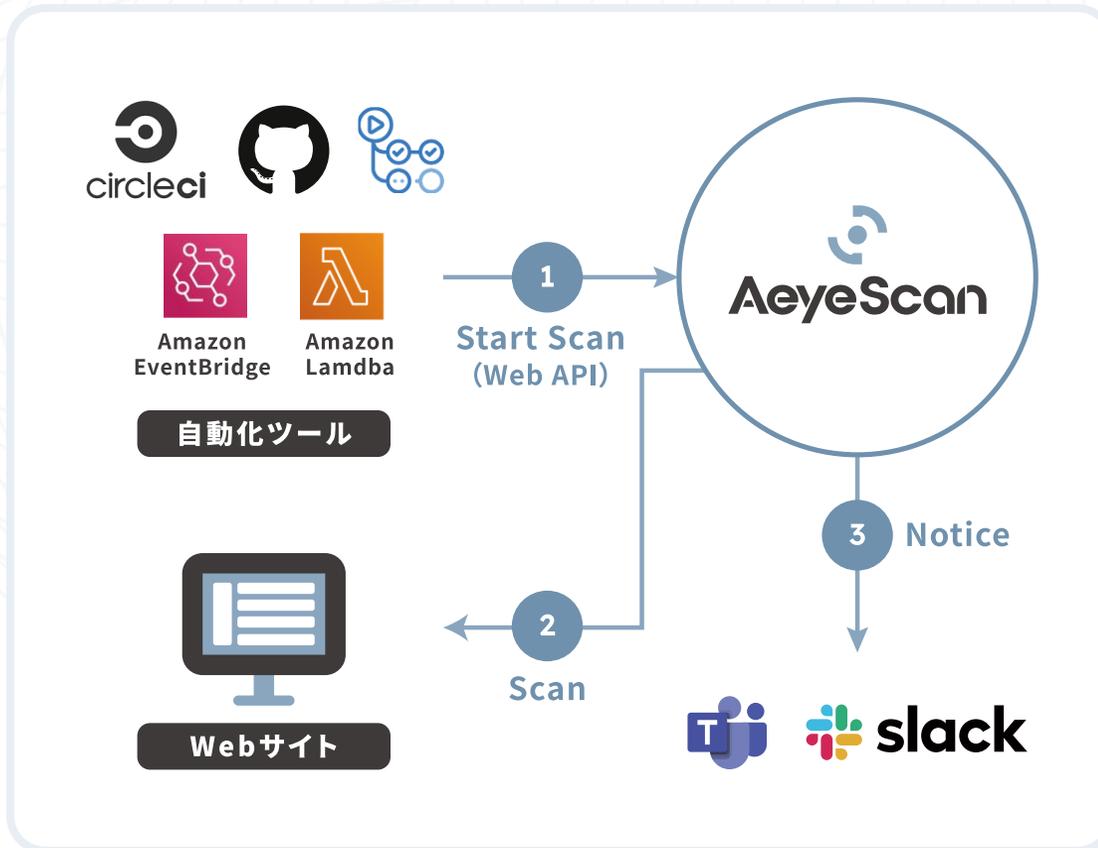
| AeyeScanとは

AI・RPAの活用により、脆弱性診断を自動化するクラウド型Webアプリケーション診断ツール。
自動巡回にも優れており、人手をかけずに診断が可能。



開発フローに組み込み、継続的な診断を実現

CI/CDツールとも連携できるため、リリースのたび自動で診断が実行される仕組みづくりも可能。診断を開発プロセスに組み込むことで、大幅な効率化とセキュリティ強化を両立します。

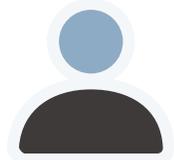


某金融企業さまの例

- AeyeScanで、診断の定期実行スケジュールを自動化
- API連携によって、レポート出力後Slackに自動通知

スタートさせたら、あとは他作業をしていればよく、終わったらSlackの通知を見てレポートを共有するだけ。非常に楽になりました。

スケジュールを設定することで、
今や診断のスタートボタンすら
押す必要がなくなっています。



| AeyeScanが選ばれている理由



誰でもかんたん操作



開発やセキュリティの知識がなくても、
トレーニングなしで診断可能。



AIによる自動診断



圧倒的な巡回精度で
24時間自動で診断。
画面遷移図で状況を可視化。



わかりやすいレポート



各種ガイドラインに準拠した
プロ仕様のレポート出力、
日本語と英語に対応。

さまざまな企業さまに導入いただいております

ユーザー企業

人材・教育



メディア



インフラ



製造



SaaS



金融



エンタメ



SI・IT企業



セキュリティ企業



導入事例紹介

SOMPOひまわり 生命保険 様



企業名 SOMPOひまわり生命保険株式会社

事業内容 国内生保事業

従業員数 2,650名 (2023年度末時点)

課題

外注だと手間と時間がかかり、
2週間の開発サイクルに合わせた診断が困難

具体的な課題

- 1 アジャイル開発のため外部委託だと契約や調整の手間、時間がかかる
- 2 開発の早い段階で脆弱性対策をする「シフトレフト」を目指したい
- 3 家族情報や病歴などを含む個人情報を扱うため、セキュリティ意識の底上げが必要

「健康応援企業」を目指し、アジャイル開発によりアプリ・サービスをスピーディーに提供中、脆弱性対策が課題になっていた。外部診断ではコストや時間がかかる一方、人材育成も非現実的なため、診断ツール導入を検討することになった。

導入

他社ツールと比較検証した上で、
検知能力、操作性などを評価し選定

導入の背景

- 1 他ツールと比較し、高い検知能力があると判断
- 2 操作性がよく、開発チーム自ら診断できる
- 3 レポート内容がわかりやすい

最初にピックアップした11製品の中から、まずはDAST製品である3製品に絞ってPoCを実施。脆弱性のあるサイトを留意して検証した検知能力、操作性、機能・運用性、パフォーマンスの点でAeyeScanが優れていると判断し、導入を決定。

効果

開発者が自分たちで手軽に診断できるようになり、ガイドや勉強会と組み合わせることでシフトレフトの考え方も浸透

具体的な効果

- 1 改修などのタイミングに合わせた、月に1本程度の診断が実現
- 2 ボタンを押すだけで手軽に診断できると、開発者側から感謝の声が上がっている
- 3 シフトレフトの考え方が理解され、開発者のセキュリティ意識が向上

AeyeScanの導入とともに開発者向けのガイドを作成し、開発プロセスに無理なく取り入れていった。コストや工数・時間といった課題が解決されたことに加え、開発者のセキュリティ意識も向上。グループ会社からも導入に興味を示されている。

導入事例紹介

テモナ様



企業名 テモナ株式会社

事業内容 サブスク支援事業・EC支援事業など

従業員数 142名 (2024年3月末連結ベース)

課題

従来使っていた診断ツールでは、想定以上の時間を要することがあり、リリーススケジュール全体に影響が出ていた

具体的な課題

- 1 他社の診断ツールはシナリオ登録にも診断実行自体にも時間がかかる
- 2 自社のセキュリティ基準上、診断の質を落とすことや、診断せずにリリースすることはできない
- 3 脆弱性診断が、リリースサイクル短縮化のボトルネックとなっていた

自社で定めるセキュリティ基準を満たすため、定期的に脆弱性診断を実施していた。その際、診断全体で時間がかかり、リリースサイクルを短縮化できないという課題があった。そのため高精度な診断をスピーディーに実現するために、ツールの乗り換えを検討し始めた。

導入

診断時間や工数はもちろん、レポートのわかりやすさやドメイン登録数が無制限であることが決め手に

導入の背景

- 1 トライアルを実施し、AeyeScanであれば診断の質を落とさずに工数を大きく削減できると判断
- 2 そのままエンジニアに共有できるほど詳細なレポートが魅力
- 3 ドメイン登録可能数が無制限のため、診断対象が多いテモナには費用対効果が高い

最初に40社ほどリストアップした中から、3社に絞って同じページを試験して違いを比較。時間や工数の他に、出力されるレポートの内容や料金体系などさまざまなポイントからAeyeScanを採用。レポートは検出された脆弱性の項目名だけでなく、対応方法まで書かれていることが魅力だった。

効果

診断時間の大幅な短縮に成功し、高頻度で診断できるようになった。クラウド型ならではのメリットも享受

具体的な効果

- 1 平均4、5日かかっていた製品の診断が、2、3日でできるようになった
- 2 マイナーアップデートの際も気軽に診断できるようになり、診断数は全体で3倍に増えた
- 3 クラウド型なのでアップデートの手間もかからず、社内レクチャーも1、2時間で可能に

診断時間が大幅に短縮できたことで、より頻繁に診断できるようになり、セキュリティリスクの軽減させることができています。また、以前のツールはオンプレ型だったためPCのセッティング等が引き継ぎのボトルネックになっていたが、その手間がなくなったことも大きい。

AeyeScanの導入を検討してみませんか？

操作性の確認、実際に利用してみたい方へ

AeyeScanの 無料トライアル

トライアルにかかる費用は不要。実際の操作性はどうか？
またどのように脆弱性が発見されるのか？
などの疑問は無料トライアルで解消しましょう。

無料トライアルの申し込み



お見積りの希望・導入をご検討している方へ

AeyeScanへの お問い合わせ

お見積りの希望・導入をご検討してくださっている方は
お問い合わせフォームよりご連絡ください。
当日もしくは遅くとも翌営業日にはご連絡を差し上げます。

お問い合わせフォーム



会社概要

商号	株式会社 エーアイセキュリティラボ		
役員	代表取締役社長	青木 歩	
	取締役副社長	安西 真人	
	取締役	杉山 俊春	角田 茜
	執行役員 CTO	浅井 健	
	執行役員	関根 鉄平	
事業内容	情報セキュリティ関連事業（調査・コンサルティング） セキュリティ診断クラウドサービス「AeyeScan」提供		
設立	2019年4月		
拠点	東京都千代田区神田錦町2-2-1 KANDA SQUARE 11F WeWork内		
資本金	1億円		
社員数	55名		
Webサイト	https://www.aeyesec.jp/		
取得認証	情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS） ISMSクラウドセキュリティ認証（ISO27017） 情報セキュリティサービス基準適合サービスリスト		

AeyeSecurityLab

セキュリティに
「あらたな答え」を提供し続ける
プロ集団



IS 752963 /
ISO 27001

CLOUD 790050
/
ISO 27017

023-0026-
20



AeyeScan

セキュリティに、確かな答えを。